

色とりどりの花が描かれたストラップや、しっとりとした黄金色のペンダント、鮮やかな蒔絵の施されたブローチ。なぜか心をくすぐり、手にとってみたくなる。それは装飾の美しさのせいだけではない。元となる鉄の存在感に惹きつけられるのだ。

江戸時代から続く伝統工芸品の南部鉄器は、400年の時を経て、南部鉄器アクセサリーという新たなステージを見出した。考案したのは、雫石町『流工房』の鈴木勝さんと、盛岡手づくり村内『田中弦工房』の田中二三男さん。岩手の自然や文化に魅せられ移住した鈴木さんが南部鉄器と出会い、もっと身近に感じてもらえる方法としてアクセサリーを思いつく。そのアイデアの相談を受け、かたちにしたのが田中さんだ。

南部鉄器アクセサリーには、大きく分けて3つの種類がある。1つめは黒染色に花をあしらった「フラワージュエリー」。価格は1,000円～とローコストで購入できる。2つめは、平泉の黄金文化にちなんで金色に仕上げた「オールドタイム（1万円代）。年を重ねた鉄錆びのような深みが特徴だ。3つめは、南部鉄器と浄法寺漆を融合させた「ジャパンアイアン（2万円前後）」。漆の艶やかさが鉄の美しさを引き立てている。



もりおがブランド物語



南部鉄器アクセサリー

デザインには、馬蹄をモチーフにした「馬」や、「水」、「月」、「結」など12ものパターンがある。先程の3つの種類の他、コンセプトや模様の表現でもパターンが変わるため、それらをかけ合わせると、3000パターンを超えるという。

さらに、ペンダントやブローチなどの装身具に加え、壁掛け、鏡といったインテリア装飾品も用意している。アクセサリーとはまた異なる、さりげなくも趣のある佇まいが心地よい。

4年の月日をかけて南部鉄器アクセサリーを確立させた鈴木さんだが、心の中には南部鉄器への原点回帰の想いもある。「鉄を身近に感じることで鉄の良さを再発見し、多くの人たちに改めて南部鉄器に目を向けてほしい。南部鉄器アクセサリーがそのためのツールになってくれれば」。

南部鉄器アクセサリー誕生と同時期に田中弦工房に入社した菊池さんは、「これから時間を経て、どうなっていくか楽しみ。新しいスタイルとして確立してほしい」と願う。

自社製品を売り込みながら、自分の魅力もアピールする。南部鉄器アクセサリーは、優秀な宣伝マンのようだ。

### 盛岡特産品ブランド認証委員会

〒020-0055 岩手県盛岡市繫字尾入野 64-102  
代表電話 019-689-2201 ファックス 019-689-2212